

2025 年度 第 2 回研修会 開催報告

学術部 大保 勇

2025 年度第 2 回研修会を 2025 年 11 月 9 日（日）13 時から 16 時 30 分にて『業務改善・効率化』をテーマに、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院研修ホールにて開催しました。雨の日曜午後でしたが、参加者は 53 名（会員 48 名、非会員 5 名）でした。昨今の働き方改革において、われわれ診療放射線技師によるタスクシェア・シフトとして、静脈路確保・アンギオ補助・STAT 画像所見報告などの取り組みを計 6 施設から発表していただきました。静脈路確保では医療現場に新しい価値をもたらし、医療の質の向上につながる業務であると述べられました。また、他職種連携の強化による業務効率化によってコスト削減に寄与しているため、病院経営にも貢献しているという発表でした。アンギオ補助では、清潔野における補助業務・植込み型心臓デバイスに関するデバイス業務・アブレーション業務についての取り組みが紹介されました。中でも、植込み型心臓不整脈デバイス認定士（CIEDs 認定）を取得し、業務にあたっていることが今後導入する施設の参考になる素晴らしい発表でした。STAT 画像所見報告では、導入の経緯から教育、症例の振り返り手法、実際の Good-JOB 症例も紹介していただき、とても参考になる発表でした。そして、最も興味深かったのは RPA（Robot Process Automation）という決まった手順を自動実行させて業務改善・効率化している取り組みが紹介されました。内容は、メール配信、月報作成、検査一覧の印刷、腎機能チェック、STAT 画像所見振り返り催促、撮影データの PACS 転送確認などでした。STAT 画像所見振り返り催促ロボットでは、緊急所見指摘能力向上のため、未振り返り者へ自動でメールを配信するシステムを RPA で行います。この RPA は特殊な知識は必要なく、初学者でも作成が容易であるとのことでした。将来像として医療 DX の推進により業務の効率化、診療放射線技師の業務時間確保に役立つツールであると感じました。全体を通して、業務改善や検査のスループット向上などにより効率化が図れた内容であり、すでに取り組んでいる施設はもちろん、これから始めようとしている施設の参考となる研修会になったと自負しています。